

令和7年度　名古屋二大庭園クイズラリー

白鳥庭園 問題

第一問

問題

白鳥庭園の常夜灯広場に設置されている常夜灯。
この場所は江戸時代、東海道唯一の海上路で、宮宿から桑名宿までの
「七里(約27km)」を結ぶ渡船場があった場所をモチーフにしています。
その場所の名前は何でしょう。下記の選択肢から選んでください。

- ① 七里の渡し
- ② 七里の船
- ③ 七里の広場

答え

①

第二問

問題

溪流・渓谷の景色であるこの場所は、長野県木曽郡植松町にある「寝覚めの床」をモチーフに作成しています。「寝覚めの床」には、その名前の由来となった「浦島太郎伝説」があります。

浦島太郎が竜宮城から戻った後、たどり着いたこの地で行なった、「浦島太郎伝説」とはなんでしょう。下記の選択肢から選んでください。

- ① この川で大きな桃を拾った
- ② 熊と相撲をした
- ③ 玉手箱を開けて目が覚めた

答え

③

解説

【寝覚の床の浦島太郎伝説】

竜宮城の夢のような日々から現実に帰った太郎は、竜宮城にいたひとときが300年であったこと、周りに自分のことを覚えているものがいないことに驚き、やがて諸国漫遊の旅路に出ます。寝覚の床の風景を気に入った太郎は、魚釣りをしたり、竜宮城の巻物を参考に仙薬を作つて地元の住民に分け与えたりしながら暮らしていました。ふとある時、竜宮城から玉手箱を持ち帰ったことを思い出します。決して開いてはならないと忠告されていましたが、太郎は玉手箱を開いてしまいました。すると中から紫色の煙が立ち上り、太郎はたちまち300歳の翁の姿に…。

太郎は嘆き悲しみ、やがて寝覚の地から姿を消してしまいました。そして寝覚の床には人知れず弁財天の像が残されており、これを祀つて建立されたのが、臨川寺といわれています。

<引用:上松町観光サイト>

巷説によれば、浦島太郎には、今までの出来事がまるで「夢」であったかのように思われ、目が覚めたかのように思われた。このことから、この里を「寝覚め」、岩が床のようであったことから「床」、すなわち「寝覚の床」と呼ぶようになったといいます。

また、和歌の中に「ねざめのとこ」という言葉があり、浦島太郎が目覚めた場所、竜宮城に行った夢が覚めた場所という記載もあったそうで、それで寝覚めの床という名前がついたとも言われています。